

A decorative vertical bar with a yellow-to-blue gradient is positioned on the left side of the slide.

ESAのご紹介（概要版）

2026年10月

一般社団法人エコシステム社会機構
(Ecosystem Society Agency)

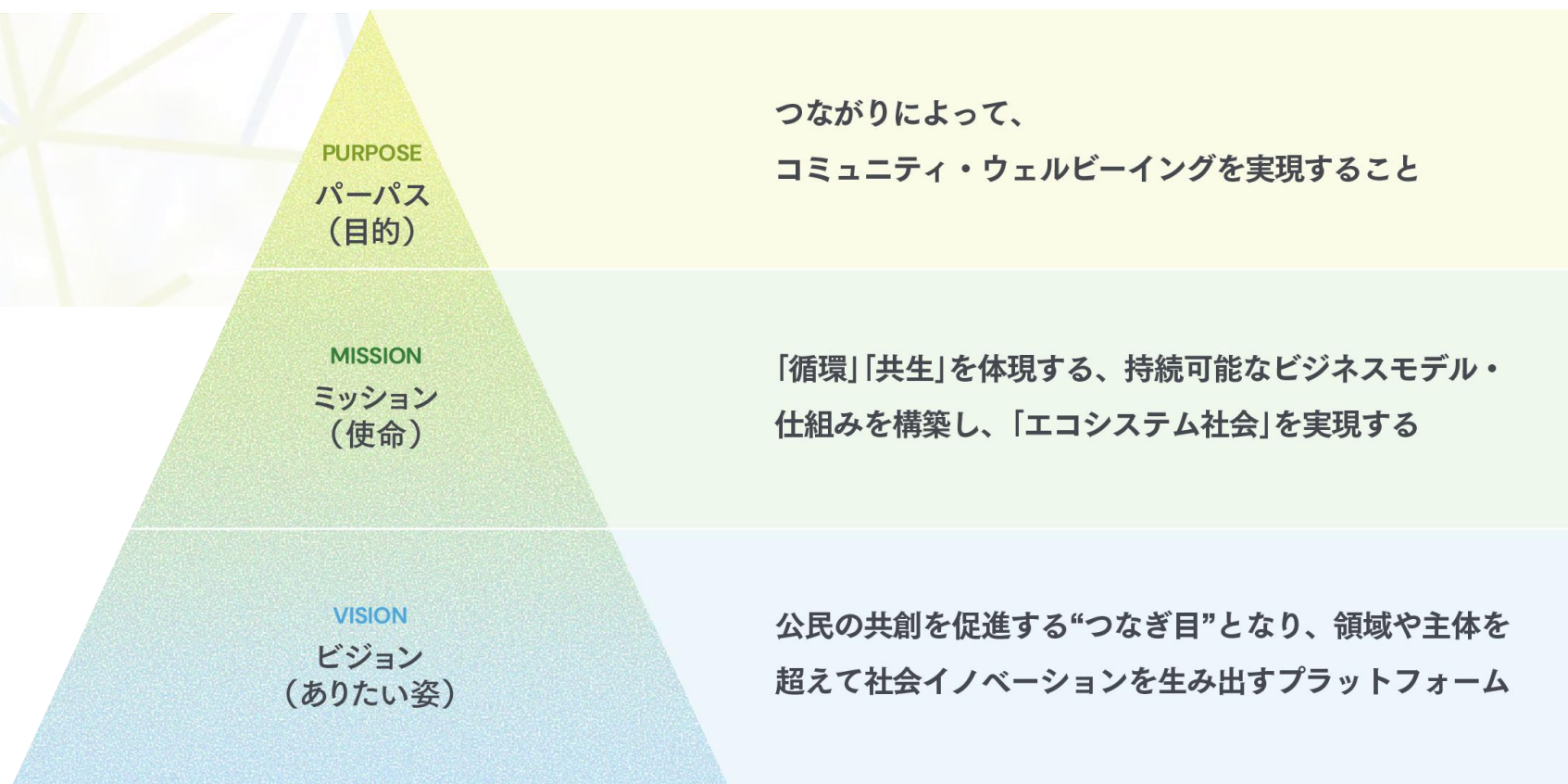


<https://esa.or.jp/>

一般社団法人エコシステム社会機構（ESA:イーサ）とは



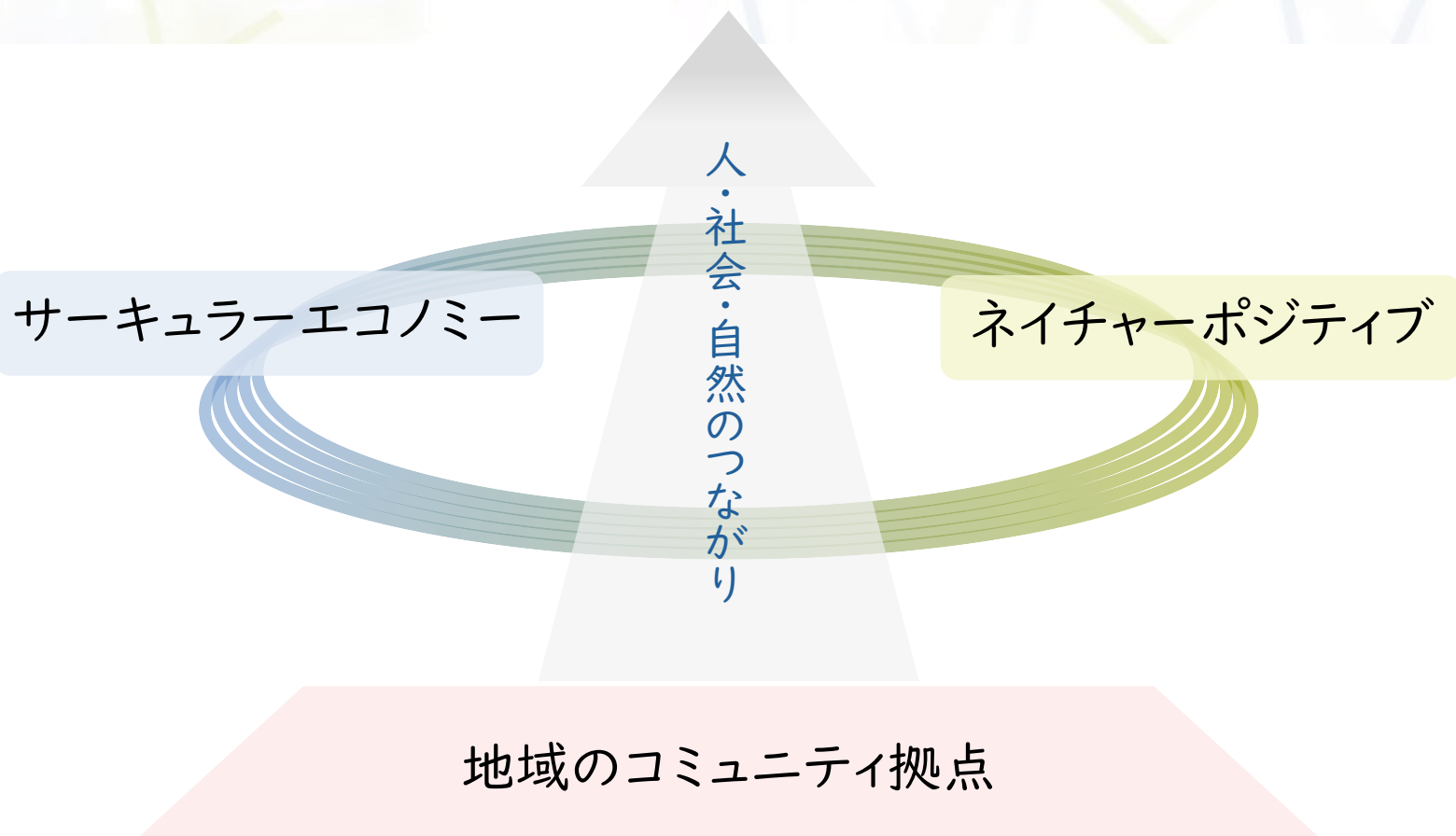
ESAは、自治体・企業・研究者など多様な主体をつなぎ、
環境や地域課題に向き合う事業づくりを通じて、
コミュニティ・ウェルビーイングを実現する公民連携プラットフォームです。



～ESAの考える
コミュニティ・ウェルビーイングとは～
多様な人のつながりによってそこに
暮らす人々が幸せや生きがいを感じ、
地域・社会・自然が循環しながら
より良い状態へ高まっていく動的な
プロセス

ESAの価値創出メカニズム

つながりによって、
コミュニティ・ウェルビーイングを実現する



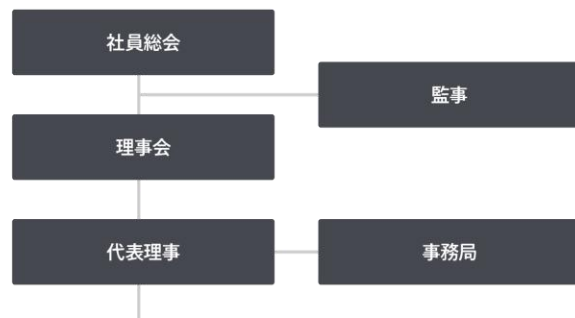
ESAがパーパスとしてめざすのは、つながりによって「コミュニティ・ウェルビーイング」を実現すること。

そのためのアプローチとして、「サーキュラーエコノミー」と「ネイチャーポジティブ」をテーマに、人・社会・自然のつながりを育む事業づくりを行います。

活動には、地域に存在するコミュニティ拠点（THE BASE）を活用し、そこで生まれる“つながり”が持続的な地域づくりの基盤となります。

ESAの組織体制

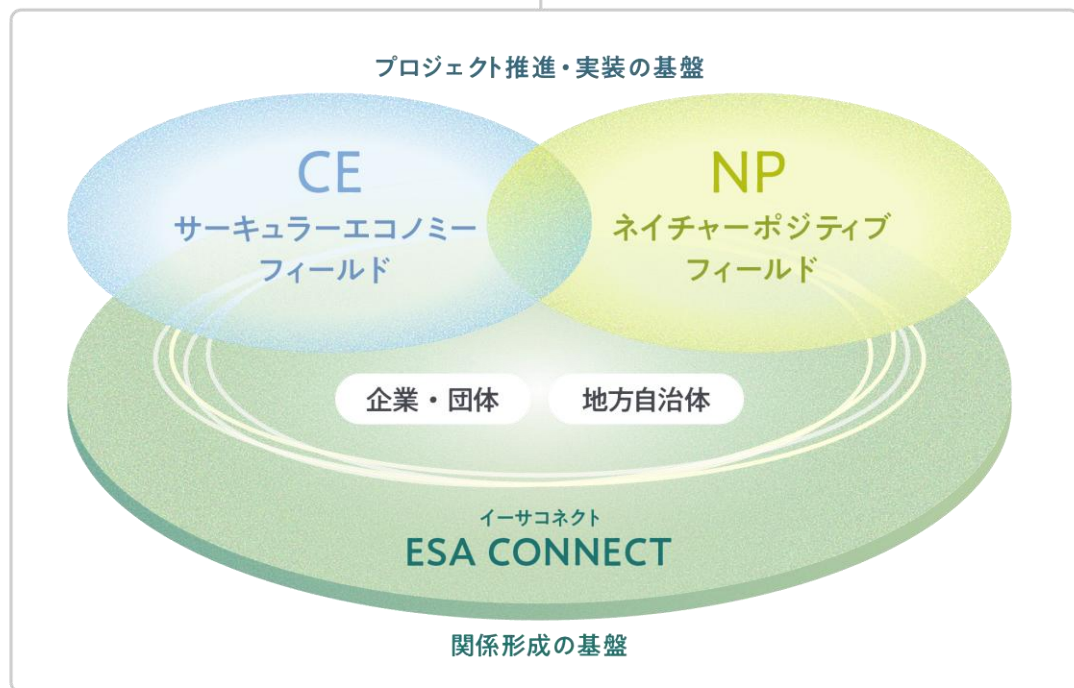
すべての会員が参加できる「ESA CONNECT」を関係形成の基盤とし、関心に応じて、サーキュラーエコノミー／ネイチャーポジティブの各フィールドでプロジェクト推進・実装に取り組めます。



◀ ESAは、理事会および監事が設置された一般社団法人です。

◀ サークュラーエコノミー／ネイチャーポジティブの各フィールドでは、関心を持つ会員がプロジェクトを構想・推進し、地域実装を目指しています。

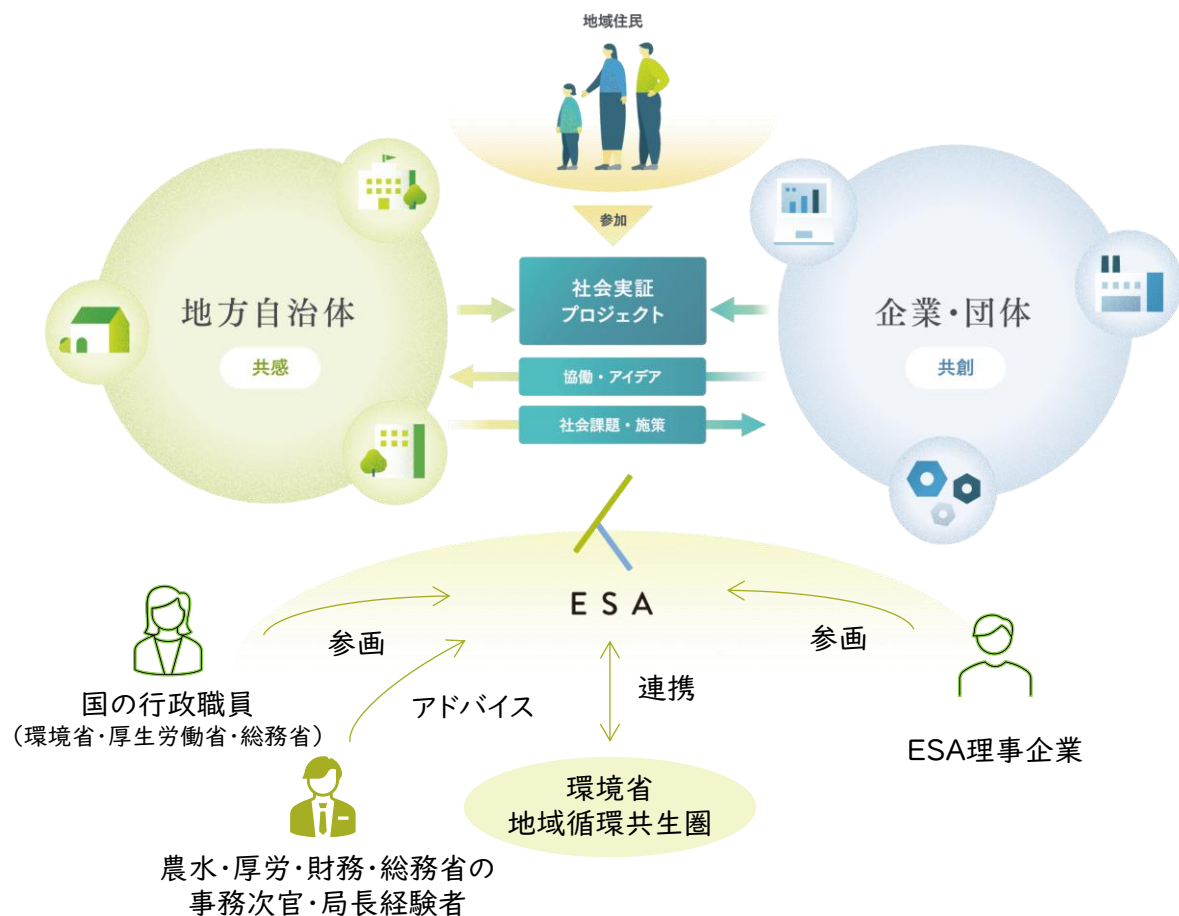
◀ **ESA CONNECT**は、すべての会員が参加できる関係形成の基盤です。フォーラム等を通じて、ESAの活動を知り、会員同士がつながり、連携のきっかけをつくれます。



多様な主体が参画するネットワーク

【プラットフォーム】

- 43の自治体、68の企業・団体が会員として参画 ※2026年10月時点
- 公民の有識者が運営（国の行政職員、理事企業が事務局に参画）
*事務局長は厚生労働省の現役幹部



【マネジメント】

● 理事・監事

理事

代表理事



アマタホールディングス株式会社
代表取締役社長 兼 CIOO

末次 貴英

理事



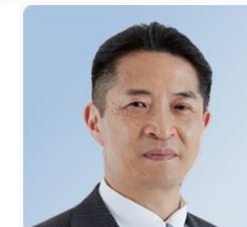
一般財団法人地域活性化センター 理事長
元内閣官房参与
元内閣官房長官地方創生活官
元消防庁長官

林崎 理



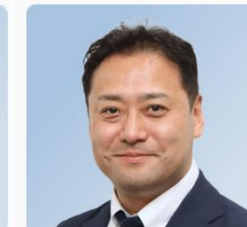
三井住友信託銀行株式会社
サステナビリティ推進部
シニアアドバイザー

金井 司



花王株式会社
グローバルコンシューマーケア部門
マーケティングアドバイザー

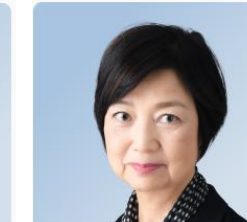
小泉 篤



厚生労働省
老健局 介護保険計画課長

野崎 伸一

監事



佐藤泉法律事務所 代表

佐藤 泉

● アドバイザー



日本生命保険相互会社 特別顧問
元厚生労働省事務次官

蒲原 基道



サントリーホールディングス株式会社
顧問 元財務省事務次官

佐藤 慎一



一般財団法人地域活性化センター 特別顧問
(前理事長)
元総務省自治財政局長

椎川 忍



東京農業大学総合研究所 特命教授
元農林水産省事務次官

末松 広行

ESAを活用してできること

ESA Connectを入口に、ESAの活動を知り、会員同士がつながり、関心に応じてプロジェクトへの参加や連携に向けた相談へ進むことができます。

ESA Connectのフォーラムに参加する

家に例えるなら、ESA Connectは会員みんなが集うリビングルームです。まずはフォーラムに参加し、ESAの活動を知り、ネットワークを広げることをおすすめします。

<開催例>

▶ [第1回イノベーションプラットフォーム会議](#) ▶ [第2回イノベーションプラットフォーム会議](#)

CE/NPのプロジェクトに参加する

サーキュラーエコノミー（CE）、ネイチャーポジティブ（NP）をテーマとして、会員企業・自治体等が参画するプロジェクトが進行しています。

ESA Connectを通じて情報を確認し、関心に応じて参加を検討いただけます。



会員に参加・協力を呼びかける

会員限定掲示板「メンバーズラウンジ」（2026年8月新設）では、ニーズやシーズを掲載し、会員に参加・協力を呼びかけることができます。個別の連携相談について、必要に応じ会員同士の接点づくりを支援します。

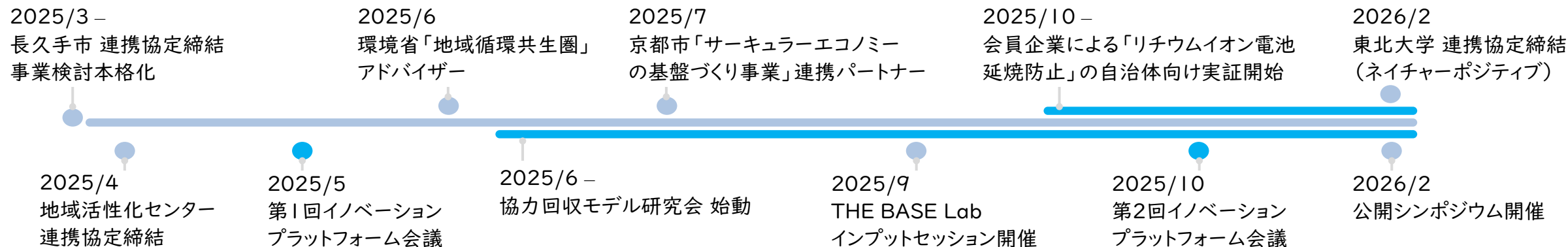
※ 商品・サービスの広告・販売を目的とする内容は、原則として対象としておりません。

プロジェクトを立ち上げる

ESAの活動目的と合致する共創による取り組みに関して、ESA内でプロジェクトを立ち上げる機会があります。プロジェクトの実施判断は、四半期ごとに開催される検討会議で行われます。※プロジェクトに関する作業は、原則として会員の皆さまで実施いただきます。

2025年度活動実績

対話と共創を通じて、会員による事業構想や地域での実装に向けたプロジェクトを推進。
CEでは、資源循環・協力回収の知見を活かし、地域実装に向けた検討を進めています。



イノベーションプラットフォーム会議（現：Connectフォーラム）

- 2025年5月・10月の2回開催し、延べ160名が参加。
- 主な内容
 - ・ 会員企業との共創による事業づくりを目指す自治体からの企画発表。
 - ・ 地域循環共生圏・金融・資源循環などのテーマで、公民双方による取り組み発表・トークセッション。
- 成果
 - ・ 自治体×企業の実証プロジェクトへの展開
 - ・ 自治体と企業のネットワーク構築



協力回収モデル研究会

- 22社42名が参画し、資源の協力回収に関する現状分析・課題の特定などを実施。2026年度に自治体でのプロジェクトを実施予定。

社会課題解決に向けたマッチング

- 企業➡自治体
 - ・ リチウムイオン電池の延焼防止の商品開発に向け、5つの自治体が試用（無償）と情報提供を実施。
- 自治体➡企業
 - ・ 自治体での「プラスチック資源の分別回収」開始にあたり、こども向け勉強会を協働で企画・開催。

入会のご案内

ESAは、コミュニティ・ウェルビーイングの実現に向けて、ともに取り組む**地方自治体、企業・団体**を募集しています。入会方法や定款等は、ホームページ「[ESAに入会する](https://esa.or.jp/join/)」(<https://esa.or.jp/join/>)をご覧ください。

募集会員

対象	会員名称	年会費
地方公共団体	● 行政会員	無料
企業・団体	● 正会員 ※社員総会* ¹ での議決権あり ● 賛助会員	1口10万円とし、会員種別に応じて以下の口数になります。 ・正会員：3口以上 ・賛助会員：1口以上

*¹ 社員総会では、理事・監事選任、財務諸表承認、定款変更等の法人運営に関する事項を決議します。

ESA事務局までお気軽にご連絡ください：info@esa.or.jp